プログラム８　自然素材を活用した造形ワークショップ

Ⅱ【資料編】 研修 13･14（p73～75）

■ 概要

数種類の割り箸を用いた造形ワークショップを行い，樹木に関する文化や歴史への理解を深めることを目指したプログラムです。割り箸をただ彫ることから始めて，かたちや模様を楽しみながら活動を進めていきます。割り箸を使った森林教育などは少なくありませんが，この事例の特徴は，特に割り箸そのものを作品制作の素材にみたてて，木がもつ質感，触感，におい，模様などを，彫刻刀という道具を使いながら普段とは異なる方法で認識していくことにあります。

「造形ワークショップ」とは，よりよい作品を完成させることだけを目的とせず，参加者それぞれが目標をもって，そのプロセスをも楽しむことができる活動です。造形ワークショップの手法を取り入れることで，活動の中でお互いの気づいたこと，考えたことの違いを知りながら，理解を深めていくという他者理解の姿勢も身につけることができます。

＊造形ワークショップ:「参加者が主体になった教育であり，その過程や結果を参加者が享受することを目的とするが，その知識や技術の習得や資格の取得を目的とせず，さらに準備して見守るファシリテータは存在しても，指導して評価する教師が存在しないもの」
（高橋陽一（2012）『造形ワークショップを支える』武蔵野美術大学）

■ 学習のねらい

① 樹木や樹木を取り巻く文化や歴史について学ぶ（森林教育，木育など）。
② 彫刻刀等の基本的な加工の技術について学ぶ（美術教育，技術教育など）。
③ 教育方法としての造形ワークショップについて学ぶ（教育全体）。

■ 所要時間 ： 60 分～120 分

■ 準備するもの

彫刻刀 5 本組（人数分） 割り箸3種（人数分） 切り出しと作業台（無くても可能）
仕上げ用オイル（クルミ，エゴマなど） サンドペーパー ワークシート 資料 8-①

■ ポイント

・ 時間を調整してアレンジが可能です。休憩に入るまでの制作①のみならば，60 分で行うことができます。その場合は解説のときにワークショップによる他者理解の効果を伝えるとよいでしょう。また，割り箸の種類を増やして違いを比べることもできます。1膳で5分を目安に，作業時間を増やしましょう。
・ ファシリテータが先に答えを言ってしまったり，声をかけすぎたりしてしまうと，自分から考える機会が減ってしまいます。時間をゆっくりとって，参加者が気づき，何かを始めるのを待つことが大切です。

■ 活動の流れ

時間	主な活動	参加者の活動	道具，材料	留意点 ファシリテータの活動
10 分	説明	ワークシートに記入．	割り箸 1 人 3膳，ワークシート 資料 8-①	彫刻刀の安全な使い方を説明． 3種類の割り箸を（各 1 膳）配布． 何の木か発問． ワークシート配布．
15 分	制作①	割り箸を 1 本ずつ彫る．	彫刻刀 作業台 ※事前に配置しておいてもよい．	危険な使い方をしている場合は注意． 手が進まない参加者には折ったり，においを嗅いだりなど，彫る以外の活動もすすめる． 参加者が気づいたことなどに関心を示し，適宜コメントする． 集中している場合は声をかけない．
5 分	ふりかえり	ワークシートに記入．		それぞれの割り箸について気づいたこと，つくりながら考えたことなどを何でも記入させる．
15 分	意見交換	彫ったものを鑑賞しあい，感想をワークシートに記入．		グループまたはペアで鑑賞させ，ワークシートを記入させる． 終わった段階で，それぞれの意見を述べてもらう．（目安：1 人2分）
		意見交換する．		ワークシートを先に記入させ，雰囲気に合わせて意見を変えることを防ぐ． 会話が自然に始まっていれば，無理に時間を区切る必要はない．
15 分	解説		解説シート 資料 8-②	木の種類，割り箸の文化，彫刻刀の技法などについて説明． あわせて行うほかのプログラム，重視する学習のねらいにあわせて，説明内容を適宜選ぶ．
10 分	休憩			
30 分	制作②	気に入った種類の箸を 1 膳選び，自分用に細工する．	切り出し	制作①と同様，切り出しの使い方を注意．

		やすりがけ，塗装する．	サンドペーパー オイル	オイルはエゴマ，クルミ，アマニなどがよい． 木材食器用のオイルも市販されている．
10 分		鑑賞，ワークシートに記入．		制作①でやり方を理解しているはずなので，あまり指示は出さない．
10 分	解説 まとめ			ワークショップについて説明する． 木に関する知識とともに，木に対する他者の視点の多様さを理解できたことをふりかえらせる．

資料 8-①　ワークシート

ワークシート　　**名前**

(1)3つの割り箸は，何の木からできているでしょう？

①
②
③

(2)割り箸を彫ってみて，気になったこと，気づいたこと，考えたことなどを記入しましょう。

(3)他の人が彫ったものを見て，気になったことや気づいたこと，考えたことなどを記入しましょう。

(4)自分だけの箸をつくった後の感想，ほかの人の箸の感想などを記入しましょう。

(5)自由記述

資料 8-②　解説シート

木の種類

①杉	縦に割れやすく香りがよい。樹皮は褐色で縦に裂ける。 葉は小さい針状で枝に密集。
②吉野杉	木目が細かく通り，耐久性，強度がある。木目が縦にはっきり均一に出るため模様が美しい。割裂性に富み，割れがよい。節がない。光沢，ツヤがある。建築資材として評価が高い。残りの端材（木の外皮に近い部分）が割り箸に利用される。
③エゾ松	枝はすべすべし，表面が白身を帯びた小さい線形の葉を密生させる。光沢がある。割れがよい。樹脂が少なく，製紙，建築資材などにも用いられる。
④桧	木の肌が滑らかで感触がよい。強度がある。香りがよい。割れがよい。淡黄色で光沢がある。耐水力が強く，建築資材として評価が高い。樹皮は褐色で縦に裂け，小枝に鱗片状の葉が密生する。
⑤白樺	強度がある。色の白さ，粘り強さ，腰の強さが特徴。樹液が多いため建築資材としては使用されない。白樺の樹液を煮沸して除くことで割り箸の材料として利用している。比較的安価である。
⑥竹	強度があり油などをはじく。竹の繊維は通水性に勝れる一方，外気の湿気を吸い込みカビを発生させやすく，特有の虫がつきやすい。生産段階で十分に乾燥させてカビ発生を防ぐ場合と防腐剤を用いる場合がある。
⑦アスペン（白楊）	やわらかく，軽い。木色の白さが特徴。ねじれとやわらかさから建材には使用できず，マッチの軸，割り箸，紙パルプ用に利用される。
⑧柳	材質がやわらかく緻密な為，細工物として使用される事が多い。 正月用の祝い箸（丸箸）として広く古来より使用される。

割り箸の種類

小判	四隅を削って面取り加工したもの。頭部から見ると切り口が小判型に見える。
元禄（げんろく）	四隅を削って面取りし，割れ目にも溝をつくって割りやすくしたもの。正式名称は「元禄小判」。「小判」型の割り箸に溝をつけて割りやすくしたもの。
天削（てんそげ）	箸の頭部である天（持ち手側）の片面を大きく斜めに切り落としたもの。 料理をはさむ部分の4面だけが面取り溝加工されている。材質の木目が強調される。杉の柾目部を正面に加工した「杉柾天削」は，割り箸の高級品とされる。
卵中（らんちゅう）	中太両細（中央部が太く，割れ目に溝を加工して，両端を細かく削り，面をとったもの）。一本ずつの組箸。角形。安土桃山時代に千利休が考案した。一本利休箸と呼ばれる。茶懐石で使用。
利久（りきゅう）	中太両細。2本に割れておらず，真ん中でついている。角形。明治後期に卵中を量産型の割り箸にしたもの。
祝箸/丸箸/両口箸	中太両細。一本ずつの組箸。丸型。お正月，祝い用。両端が細く上下の区別のない丸箸が使われる。柳箸，家内喜箸。

（田中千賀子）